

春日部市民憲章の解説

春日部市民憲章は、前文、本文、結びの3つで構成されています。全体として、一文を短くし、分かりやすく、覚えやすくなるように配慮しました。

市民憲章とは、時が移り変わっても色あせず、その時代の人々が受け入れられるものと考えました。そのため、現在の「春日部らしさ」や、「春日部の個性」については、将来の春日部市民が抱く思いとの間にかい離が生まれないう、過度に盛り込まずに案文を作成しています。

また、読んだ人や聞いた人が美しく感じ、心に染み入るような言葉を慎重に選びました。中には、漢字や表現が、子どもたちには難しい部分もありますが、市民憲章の言葉に触れることで、子どもたちの語感が磨かれるということを期待しています。

(1) 前文について

わたしたちのまち春日部は	かすかべ	ふるとねがわ	えどがわ	なが	古利根川と江戸川が流れ			
豊かな自然のなかで	ゆた	しぜん	でんとう	ぶんか	さんぎょう	はぐく	れきし	育ててきた歴史のあるまちです
わたしたちは	さき	じだい	おも	は	この先の時代に想いを馳せ			
だれもが住み良い	す	よ	みりょく	めざ	魅力あるまちを目指して			
ここに	しみんけんしょう	さだ	市民憲章を定めます					

一段落目では、わたしたちのまちについて説明しています。市内を流れる代表的な河川である「古利根川と江戸川」が、春日部の自然を形作っているとともに、その恵まれた豊かな自然のなかで、先人たちが育ててきた伝統、文化、産業といった歴史が脈々と受け継がれているまちであることを表現しています。

二段落目では、市民憲章を定める目的を明らかにしています。「理想の春日部」を聞いたアンケートでは、18歳以上の市民も、小中高生も、「安心・安全なまち」を回答した人が最も多い結果でした。このような理想の春日部を、「だれもが住み良い」、「魅力あるまち」とし、これを目指すことを目的としています。

同時に、今を生きる私たちのためだけではなく、私たちの子や孫、その先のまだ見ぬ子どもたちの時代がどのようなようになっていくかよく考えることで、この住み良い「春日部のまち」を、よりよい形で将来につなげていく決意を表しています。

(2) 本文について

本文は5条で構成され、理想のまちを実現するための道しるべとして、市民一

人ひとりが主体的に実践してほしい行動を表しています。それぞれの文は抽象的な表現としていますが、これは、読んだ人や聞いた人が様々な価値観のもとで、それぞれの取組を行うことを期待するためです。

条文の順番については、まず「身の回りのこと」からはじめ、対象を広げていく構成としています。なお、小・中学生ワークショップでは、どのグループも自然や環境についてをテーマに挙げ、大切に考えていたことから、「身の回りの環境」を1条目に掲げています。

語尾については、「～します」という宣言の形ではなく、「～しましょう」という、「みんなで一緒に取り組みましょう」と優しく呼びかける形としています。

ひとつ かんきょう
一 環境にやさしく しぜん まも かけがえのない自然を守りましょう

1条目は、身の回りの環境についてです。

前文で示した豊かな自然のなかに、多くの生き物たちも共生しています。一人ひとりが「環境」に配慮した生活を送り、その積み重ねで私たちを取り巻く大きな「自然」を大切にすることを呼びかけています。

ひとつ こころ からだ すこ
一 心と体を健やかに りょうしき こうどう こころ 良識ある行動を心がけましょう

2条目は、わたしたち自身についてです。

自分自身の健やかな「心」と「体」を養うとともに、「良識」を持つことで、一人ひとりが物事の良しあしを見分け、自発的に行動することを呼びかけています。

ひとつ たが そんちょう
一 お互いを尊重し たす あ こころ しんらい きず ともに助け合い 心かよう信頼を築きましょう

3条目は、他者との関係についてです。

安心して暮らせるまちにするためには、まず相手を認めることが大切です。そして、人それぞれの多様性を受け入れ、互いに助け合い、表面上だけではない「心かよう信頼」で、つながりを深め、双方の絆を築いていくことを呼びかけています。

ひとつ でんとう ぶんか たいせつ つぎ せだい ひ つ
一 伝統と文化を大切にし 次の世代に引き継ぎましょう

4条目は、これまでの春日部についてです。

これまでの人々が、途切れることなく培ってきた「伝統」と「文化」に敬意を払い、将来につないでいくことを呼びかけています。

ひとつ ひろ しや せかい まな へいわ ゆめ みらい
一 広い視野で世界に学び 平和で夢のある未来をつくりましょう

5条目は、これからの春日部についてです。

春日部はもとより世界にも広く目を向け、様々な分野について学び、将来世代へ向けた持続可能で希望のある未来をつくることを呼びかけています。

(3) 結びについて

そして

このまちで

い
ともに生きましょう

結びでは、このまちで一緒に暮らしていくことを呼びかけ、春日部市民の一体感が醸成される願いを込めています。ここでいう「生きる」とは、今と一緒に過ごすことを意味しており、たとえこのまちで過ごす時間が一時であっても、その短い時間をともに分かち合うことを呼びかけています。

また、短い文章をあえて3行にすることで余韻を残し、深く印象付けられるようにしています。